

3.11東日本大震災を 振り返る



福祉に・ずっと・まっすぐ



株式会社ツクイ

東北圏

宮城エリア

佐藤

清志

南三陸町

やり!!

海
の港!!
活すまい
この浜
北洋村漁業振興会









佐藤









DAY

デイサービス

SERVICE

ゲーム
14:00~

おやつ
14:40~





新 介 所





グループホーム

H17・11月オープン
2ユニット 18人定員

H26・10月 共用型
3人定員
認知症対応型通所介護開始

デイサービスセンター

H17・5月オープン
30人定員

震災後 送迎 エリア

津波被災地域で居住が少ない

復興住宅建設

大型の仮設住宅団地

送迎エリアを拡大して
営業を強化する地域



その時・・・地震が来た

2011年3月11日(金曜日)14時46分18秒

宮城県 牡鹿半島の東南東沖130km

(北緯38度06.2分、東経142度51.6分、深さ24km)を震源とする
東北地方太平洋沖地震が発生した

デイサービス お客様23名

グループホーム お客様18名

車輦 ワゴン車2台、軽4台 一度には全員乗車出来ない

状況を見守る時間があった・・・

防災無線で大津波警報が発令、避難のアナウンスが流れた

事業所から海は見えませんが、津波がどんなものか・・・

地震で怪我はなし

とりあえず避難することをグループホーム所長と決める 15分後位

停電、電話不通になる

所長 1回目の苦悩

職員から子供や家が心配だから帰りたいと言われる・・・

3時帰りのお客様が帰りたいと騒いでいる

職員もお客様も不安が

一瞬、困ったなと思った

職員を帰してあげたいが、帰せばお客様はどうすれば？

近くの職員は考えも交錯し、子供を連れてここに来ればと言った・・・

海に近い職員は危険だから残した

お客様も送迎することは危険だからと一緒に避難することを説得

グループホームと交互にピストンで近くの好文館高校に避難開始

3往復ぐらいしているうちに、足下に津波が

渋滞してきた

在宅酸素の換えがなかった・・・

避難先 好文館高校



宮城県石巻好文館高等学校



3ソーンエスポワールB棟

2丁目

大街道北

(株)あいのや 大街道店

アーバン・スクエア参番館

2nd STREET 石巻店

コーポしばた1

うみかぜ接骨院

クレフォート貞山

1丁目

佐藤マッサージ治療院

石巻たばこ販売協同組合

サンハイツマツモト

天然温泉元湯 元気の湯



1丁目

石巻市立ふ

西松屋チェーン 石巻店

ホテルルート

石巻大街道郵便局

イン石巻中央

2nd STREET 石巻店

石巻市立ふ

石巻貨物線

石巻貨物線

ひたち整体院

南谷地ハイツ

コーポシバア

3丁目

エクセル

4丁目

コーポラスミヤ1

イツ

エクセル

ぶらすびあさいとう2

ハイツ大和

ホテルルート

石巻大街道郵便局

イン石巻中央

2nd STREET 石巻店

石巻市立ふ

避難先 好文館高校 校舎3階と体育館2階

別々の建物へ避難、車いすのお客様の対応

避難先を指示したが、別々の建物へ各車輦避難した
結果的に校舎3階と体育館2階に離れてしまった
全体の避難状況がわからなかった

県立好文館高校は 避難場所で避難所ではなかった

津波が来ていたので1階には滞在できない

お客様の誘導、車いすのお客様を階段で2階、3階への誘導が厳しい

高校の男子生徒が大きな声で誘導、車いすと一緒に運んでくれた

職員だけでは対応は出来なかったかもしれません。感謝しかない！

体育館は冷たい床に座るしかない

教室は椅子があったが、すでに一般住民もいっぱい

学校の先生は生徒の対応、一般住民の対応で・・・

生徒も先生もできることをしてくれた

避難訓練と実際は・・・

訓練は活かされたが、それ以外が多すぎて・・・

**避難は訓練通りできたが、ピストン、別の場所に滞在する想定がない
訓練は計画されたもので、その通りに行っていたが
災害備蓄品が不足していた、電気、電話が不通の想定がなかった
緊急連絡ができなかった、安否の確認ができなかった
管理者が支持する者がその場にはいない場面がある**

日が暮れてきた・・・

遅くなっても帰れると思っていた・・・

**薄暗くなって校庭に津波が、1階の教室が水でいっぱい
ワゴン車のダッシュボードまで津波が、ハザードがつき、クラクションが
携帯も通じない、家族に居場所と無事をメールした
日赤に何度も電話した、奇跡的に通じた、在宅酸素ボンベを頼む**

夜になり、真暗の教室、体育館、そして朝に

寒くなってきた、真暗、携帯の明かりが頼り、じっとしてるしかない
お客様の対応をしなくては・・・自分達の家族の安否もわからない
横にしたり、トイレ介助・・・ツクイのお客様だけではなかった
一般の方の携帯がメール可能、ラジオの安否確認に
ツクイ石巻大街道、全員無事、好文館高校に避難と送ってもらった

在宅酸素の目盛りが0になった

動かない、しゃべらない様にしてもらおう以外に方法がなかった
数分おきに息をしてるか、大丈夫かと励ました
そして明るくなったが、誰も救助には来なかった・・・

酸素ボンベと取りに自宅へ行こう

歩いて1キロの自宅に、でも流されていないか・・・
余震あり津波警報は続き、腰まで海水がある道を歩いて自宅に
ボンベがあった、間に合うか・・・

2日目、体育館に行けてみんなと再会

少し元気になったが、排せつの問題が

水洗トイレに水がないので、排せつ物が便器を覆いつくしてきた
トイレが避難者に対して足りない・・・

衣装ケースやバケツを利用した

事業所に戻ってみた・・・ 再開はできないのでは・・・

事業所にお客様、職員全員無事、好文館高校に避難中と張り紙を

所長 2回目の苦悩

張り紙を見て職員の家族が集まってきた

家族や子供が来て家に帰りたいと思っている・・・

どうしたらよいのか？ある職員からどうすればいいですかと聞かれる

私は、帰っていいとも、残ってくれとも言えないと言ったら

みんなが、所長の指示に従うと言った。そしてみんな残った・・・

3日目 自衛隊が来た

避難所じゃなかった・・・やっと救援物資等が来た

体調不良者等を自衛隊が日赤に搬送を始めてくれた

お客様が突然倒れた・・・相談員が自衛隊のヘリに付き添っていった

どこに連れていかれるかわからない、戻る手段もないのに・・・

日にち思い出せないが、ツクイから応援が来た

水色のジャージで仙台等からおにぎりをもって来てくれた

すごく眩しく見えた、映画みたいなシーンだった

すごく心強かった！

ツクイだけで食べれなかった

グループホームの非常食のビスケット、一枚を4つに割って

自分達だけでは・・・

自衛隊と協力して、要援護者の対応にあたった

そして一日一日と家族、病院、別の避難所へ 最後の一人まで

今思うこと…

- ① 管理者の判断、指示は重い
- ② 訓練と実際の違い→自分も職員も家族がいる当事者、被災者
- ③ 避難所と避難場所は違う
- ④ 災害時は職員をどうすればいいのか、どうすべきなのか
- ⑤ 停電、断水、携帯が使えない災害時を想定しないと
- ⑥ 非常食の備蓄、その他の準備
- ⑦ 送迎車だけで一気に逃げられない
- ⑧ 災害時に応援してくれる事業所との提携
- ⑨ 災害マニュアルの細分
- ⑩ どこに逃げる、避難するかの定例化
- ⑪ 災害別の避難、サービス継続のルール
- ⑫ 行政、ケアマネージャーも被災者となる
- ⑬ 一人暮らしのお客様の対応